

こたえ ^{りょうし} 漁師と小さな魚^{りょうし} 漁師と小さな魚 (イソツプの話)

その日、^{りょうし} 漁師は、朝からあみを投げつづけていましたが、なかなか魚がとれませんでした。つかれきって、もう帰ろうと思ったとき、ようやく一ぴきの小さな魚がかりました。

すると、魚が言いました。

「^{りょうし} 漁師さん、どうかわたしをにがしてください。わたしは、まだこんなに小さいのです。もっと大きくなってから、またつかまえて来てください。そのほうが、ずっと高く売れますよ。」

^{りょうし} 漁師は、少し考えてから、首を横にふりました。そして、魚に向かってこう言いました。

「いや、それはできないね。今、手の中にある魚を手放して、いつかまるか分らない大きな魚をまつのは、おろか者のすることだ。」

そう言って、^{りょうし} 漁師は小さな魚をかごに入れ、ゆっくりと家に帰っていききました。

たしかでない大きなもうけより、今、たしかに手に入るものを大切にしたいほうがよい、ということ伝える話です。

1 ^{りょうし} 漁師にかかったのは、どんな魚ですか。

一ぴきの

小 さ な

魚

2 魚が、にがしてほしいと言ったときの理由は何ですか。

^ア 大きくなってからのほうが、高く売れるから。

^イ 家族がまっているから。

^ウ ^{りょうし} 漁師がつかれているから。

3 ^{りょうし} 漁師は、魚の願いを聞いて、首をどうふりましたか。

首を

横

にふった。

4 この話が伝えていることに合うものに、○をつけましょう。

^ア 大きなもうけをねらうほうがよい。

^イ 今、たしかに手に入るものを大切にしようがよい。

^ウ 魚は大きくなってからとるほうがよい。